

## 令和2年度 長野市中心市街地活性化プラン 数値目標フォローアップ

令和3年5月21日

### 1 目標指標の状況

活性化の目標	目標指標	基準値 (H28)	目標値 (R03)	最新値		目標達成状況	
				数値	時点	R 1	R 2
目標1 行きたくなるまち	善光寺仁王門前の歩行者・ 自転車通行量 (人/日)	27,150	30,000	25,537	R02.10	C	C
目標2 住みたくなるまち	総人口に対する中心市街地の 人口比率 (%)	2.47	2.65	2.52	R02.10	B	B
目標3 巡りたくなるまち	① 中心市街地(6地点)の 歩行者・自転車通行量 (人/日)	112,504	108,000	79,112	R02.09	A⇒	C
	② 中央通り及び権堂アーケード 沿い1階部分の空き店舗数 (件)	21	21	21	R02.10	A⇒	B
目標4 交わりたくなるまち	もんぜんぶら座及び生涯学習 センター並びに権堂イースト プラザ市民交流センターの利用 者数 (人/年)	560,735	583,000	206,145	R03.03	C	C

※ 目標達成状況(目標3の②空き店舗数については、21件より少ない場合A)

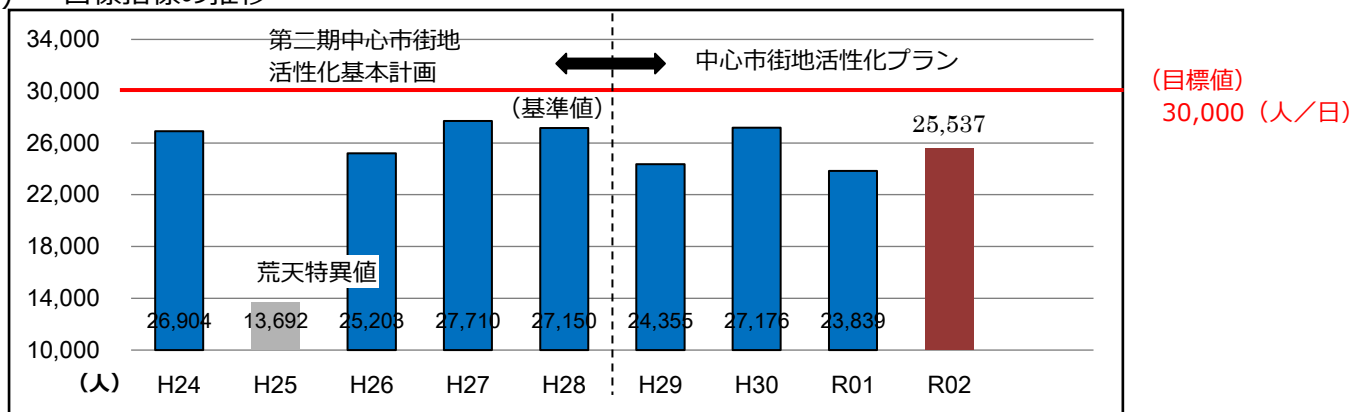
A: 目標値以上

B: 基準値以上、目標値未満

C: 基準値未満

### 2 目標1「行きたくなるまち」について

#### (1) 目標指標の推移



#### (2) 目標の達成状況と今後の方針(令和2年度の目標達成状況 C: 基準値未満)

新型コロナウイルスの影響もあり、中心市街地を包括する歩行者調査区域全体では前年比73.5%と大きく減少している。目標指標である「善光寺仁王門前の歩行者・自転車通行量」はGoToトラベルの効果か、昨年度と比較し107.1%増加したが、プラン策定時の基準値、目標値を下回る結果となった。

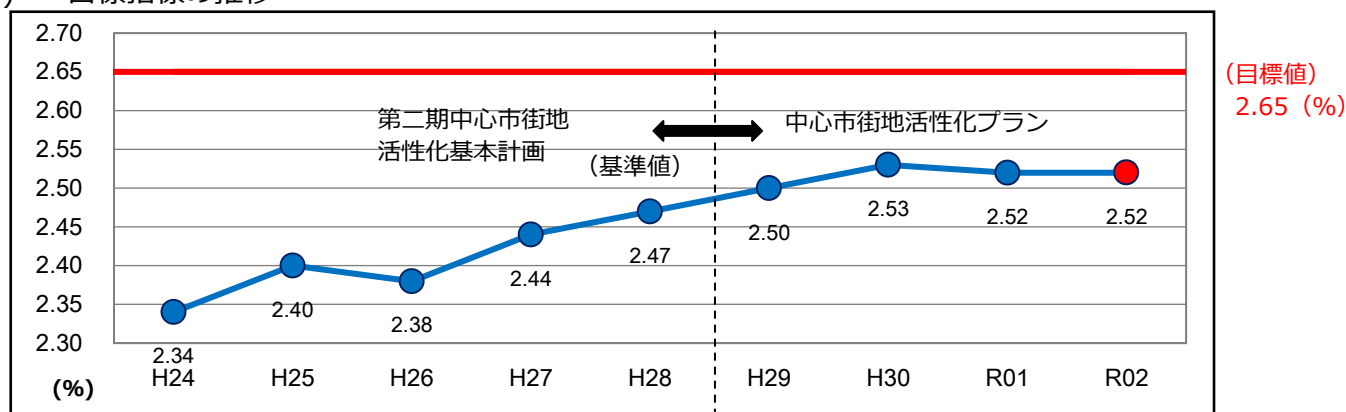
全体の推移をみると荒天による特異値だった平成25年度を除いて、測定日の天候に左右されるものの平均26,000人前後で推移しており、目標値である30,000人に到達するには「ばていお大門運営事業」など実施中の事業による効果発現が必要である。

また、この地点の歩行者通行量は善光寺表参道にあたる南北方向のみを計測しているが、リノベーションによる魅力ある店舗が周辺に増加するとともに、街なみ環境整備によって各小路の魅力が向上することで、表参道以外を通行する人が増える可能性がある。引き続き、周辺の回遊性を高めることで表参道の通行量も減少から増加に転じ、比例して増えていくと見込まれる。また「城山公園再整備事業」により、一帯を文化・観光・レクリエーションの拠点としての整備を図り、善光寺の南側だけでなく北側エリアを含め、「行きたくなるまち」の目標実現につなげていくなどの必要がある。

※令和3年度は長野県立美術館の開館（令和3年4月10日）、城山公園噴水広場完成（令和3年7月公開予定）となっており、城山公園周辺の整備が進められている。

### 3 目標2「住みたくなるまち」について

#### (1) 目標指標の推移



【長野市総人口、中心市街地人口の実数】(単位: 人)

年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
長野市総人口	386,882	385,897	384,641	383,639	382,249	380,593	378,351	376,104	374,273
中心市街地人口	9,057	9,245	9,157	9,351	9,426	9,516	9,585	9,472	9,422

#### (2) 目標の達成状況と今後の方針 (令和2年度の目標達成状況 B: 基準値以上、目標値未満)

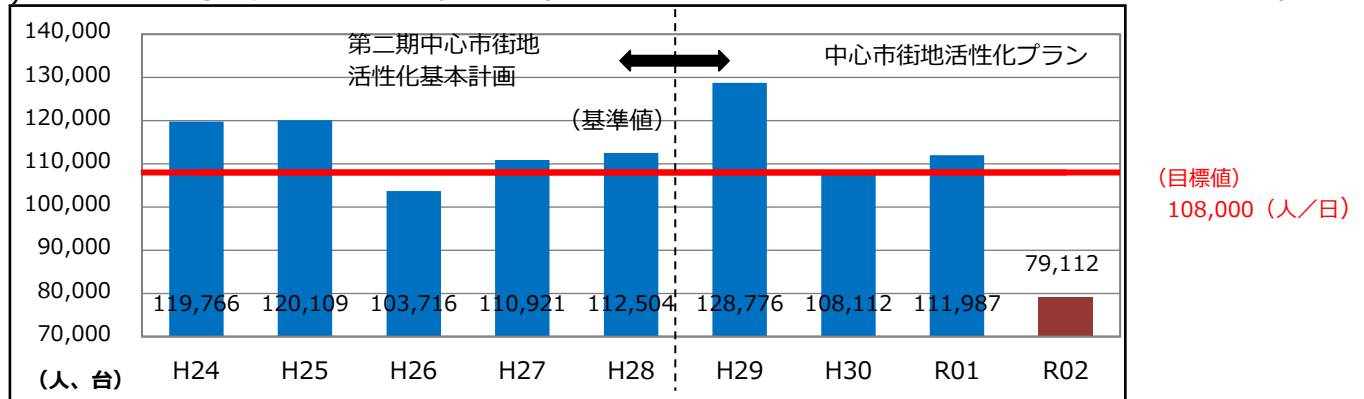
目標指標である「総人口に対する中心市街地の人口比率」は、昨年度の2.52%と同率である。この5～6年間の全体的な傾向としては右肩上がりの状態が続いており、人口減少社会が進行する中ほぼ順調に推移している。

住民票から算出した目標指標のもととなる「中心市街地人口の実数」(上表下段)は、平成24年度の9,057人以降、この数年は9,500人前後と増加傾向にある。人口の推移を地区別にみると昨年度との比較では著しく人口が増加した地区はない。

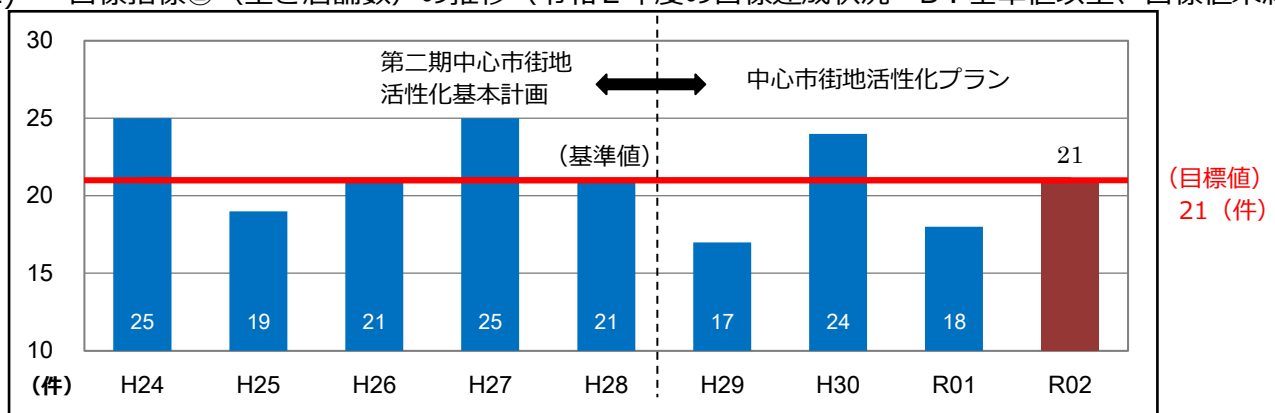
今後は令和3年度(2021年度)中に完成を予定している「南石堂A-1地区優良建築物等整備事業」を計画通りに進めると共に、中心市街地でも民間主導によるマンション建設予定があり、それに対する需要もある。さらに遊休不動産活用事業で古く趣のある建物に価値を見出す若者の門前等中心市街地への転入を促していく。

#### 4 目標3「巡りたくなるまち」について

(1) 目標指標①（歩行者・自転車通行量）の推移（令和2年度の目標達成状況 C：基準値未満）



(2) 目標指標②（空き店舗数）の推移（令和2年度の目標達成状況 B：基準値以上、目標値未満）



#### 【空き店舗数の地域別内訳】

年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	令和元年度	令和2年度
善光寺表参道	17件	12件	14件	17件	19件	16件	21件	14件	17件
権堂アーケード	8件	7件	7件	8件	2件	1件	3件	4件	4件

(3) 目標の達成状況と今後の方針

目標指標①の歩行者・自転車通行量（グラフ（1）参照）は中心市街地内の6地点（32ポイント）で測定している。内訳は歩行者65,460人、自転車13,652台で、前年度との比較では歩行者が28,501人の減少、自転車が4,374台の減少であった。6地点それぞれの前年度との比較では全地点で減少している。新型コロナウイルス感染拡大防止のための外出抑制などの影響によるものと思料される。

今後は、周辺の回遊性を高めることで歩行者通行量も増加するものと見込まれるため、「まちなか賑わい創出事業」や「中央通り歩行者優先道路化事業（Ⅱ期）」などにより、これまで以上に回遊性の向上を推進し、「巡りたくなるまち」の目標実現につなげていく必要がある。

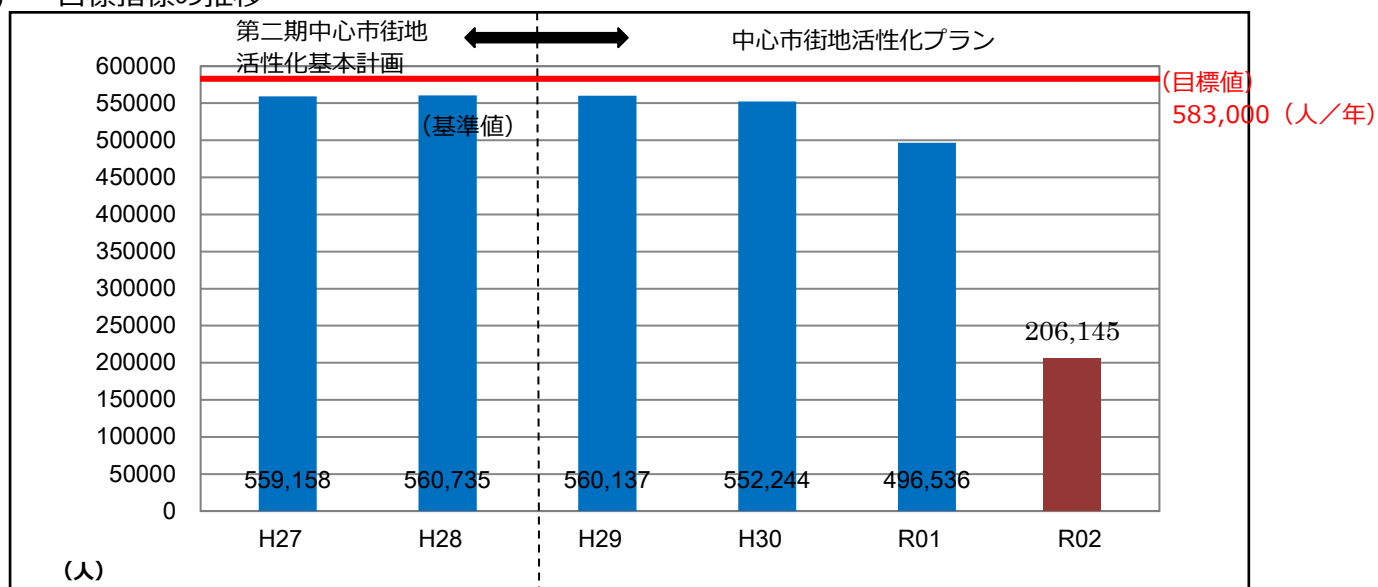
目標指標②の中央通り及び権堂アーケード沿い1階部分の空き店舗数（グラフ（2）参照）は、空き店舗数は昨年度から3店舗増加し、基準値である平成28年度と同数であった。内訳は、本年度の新規出店等による空き店舗解消7件、前年度からの継続空き店舗11件、本年度の新規空き店舗10件である。新型コロナウイルスの影響などにより、小売り・飲食・サービス業など、職種を問わず空き店舗が散見された。

今後は「集客イベント等開催事業」や「空き店舗等活用事業」などを活用し、空き店舗を減らして

いくなど、「巡りたくなるまち」の目標実現に向けた改善が必要である。

## 5 目標4「交わりたくなるまち」について

### (1) 目標指標の推移



### (2) 目標の達成状況と今後の方針 (令和2年度の目標達成状況 C: 基準値未満)

目標指標である「もんぜんぷら座及び生涯学習センター並びに権堂イーストプラザ市民交流センターの利用者数」は、前年度より290,391人、4年前(基準時)と比較すると354,590人減少した。

「もんぜんぷら座」の利用者数は前年度より120,265人減少、「生涯学習センター」は前年度より143,631人減少、及び「権堂イーストプラザ」は前年度より26,495人減少している。また、3施設の4月から9月の利用者合計数は前年度より182,946人減少(対前年比30.70%)し、10月から3月の利用者合計数は前年度より107,445人減少(対前年比53.80%)しており、これらすべての施設において、「新型コロナウイルス感染対策」の影響等が共通していると考えられる。

生涯学習センター、もんぜんぷら座、権堂イーストプラザ市民交流センターについては、新型コロナウイルス感染拡大防止の緊急事態宣言を受け、4月15日から臨時休館(31日間休館)した。開館後も施設予約キャンセル等が相次ぎ、貸出も少人数のみに制限したため、人数が激減した。生涯学習センターについては対前年比24.56%、もんぜんぷら座については47.69%、権堂イーストプラザ市民交流センターについては対前年比65.25%と大幅に減少している。

今後は、社会情勢の変化に応じて各種イベント、講座・講演会、学習室開放等を実施し、「交わりたくなるまち」の目標実現を目指していく。

## 6 今後のまちづくりについて

今後のまちづくりについては、新型コロナウイルスによる影響は甚大であり、長野市内での感染者は令和2年(2020年)3月29日が第1号で、令和2年(2020年)4月16日に全国に緊急事態宣言が発令された。長野県は令和2年(2020年)5月14日に緊急事態宣言解除となった。新しい生活様式が浸透し、テレワークの実施や通信販売・デリバリーサービスの利用などが増えた。今後のライフスタイルに対応した新たなまちづくりを検討する必要がある。